

栗岩 雪音
KURIIWA Yukine



Mamandara

アクリル絵具、木板、スタイロフォーム、和紙

Mamandara

学部4年間は私の心情を露骨に反映した"生の不条理"をテーマに制作を行ってきた。当時の私は、自身の生い立ちや家庭環境に静かな憤りと漠然とした自責の念を感じ、人生そのものをある種諦観していたよう思う。むしろこの悲観主義のおかげで、私は迷うことなく作品制作ができていたとも言える。しかしこの2年間で私の内面に大きな変化があった。周囲の人々の言葉や環境の変化が転機となり、これまでと異なった見方で物事を捉えられるようになっていく。間違いなく肯定的な変化であるが、皮肉にもその一方で、長らく向き合った題材が失われ、私は立体芸術において何を作ればいいのか見失ってしまった。

しかしながら全く制作をやめたわけではなく、大学院での制作に行き詰まっていた間は、絵を描いていた。ある意味立体作品を制作することは受動的であったが、絵を描くことは能動的に行ってきたよう思う。幼い頃から絶えず描き続け、私にとっては食事や睡眠と同等に生活に溶け込んでいる。修了制作に

あたって、立体芸術に在籍しながら絵を描くことに葛藤もあったが、完全な絵画表現ではなく立体芸術なりの表現で絵画作品を生み出そうと試みた。その結果、この作品が誕生した。

マンダラ(曼荼羅・曼陀羅)は一般に、密教の教えである仏の世界を絵にしたもので、悟りの境地である宇宙の真理を視覚化している。直訳すると「本質そのもの」の意である。この2年、私は自分自身と向き合い自身の本質を見たよう思う。

【Mamandara】は私なりの曼荼羅。私なりの信仰。

私達は絶え間なく外界と呼応し合う。互いに影響し合う。溶けて混ざろうと引っ張り合う。しかし幸か不幸か、例え望んでも自身の輪郭が崩れることは決して無く、完全に他と同質になることは不可能だ。

私は私。あなたはあなた。であるが、私を作り出すのはあなたであなただけを作り出すのは私。揺れながら反応し形はできていく。生み出された曲線は私たちのシルエット。記憶の蓄積と、変動し続ける周囲が今の私を構成する。

この作品は、今の私。